



資料提供
 平成 28 年 8 月 30 日
 課名：営繕課
 担当：的場，吉田
 内線：2311
 直通：082-513-2311

厳島港宮島口地区旅客ターミナル建設工事に伴う基本・実施設計委託 公募型建築プロポーザルの最終審査結果について

広島県では、「宮島口地区まちづくりグランドデザイン」に基づき、世界遺産・宮島の玄関口にふさわしい、新しい厳島港宮島口地区旅客ターミナルの整備を計画しております。

この旅客ターミナルの設計者を選定するために実施している公募型建築プロポーザルの最終審査会を8月9日(火)に廿日市文化ホールさくらびあで開催しました。

厳正な審査の結果、設計者を(有)乾久美子建築設計事務所に特定しましたので、報告いたします。

1 最終審査結果

特定者	いぬいくみこ (有)乾久美子建築設計事務所 (東京都新宿区新宿 5-17-6 花園ビル 4 階)
次点者	(株)アトリエ・アンド・アイ (東京都世田谷区梅丘 1-25-12 はしづめビル 201)

2 最終審査部会の講評（特定者の提案が評価された主な点）

- (1) 周辺地域の人の流れを踏まえた計画や周辺地域との一体性を考えて計画されている。
- (2) 半外部の空間を大きくし、内部空間との関係性を曖昧とすることで境界性を作り出し、そこに、南西から北東へと続く S 字型ストリートが非常にうまく計画されている点や、規模の違う商店や棧橋など大小様々な建物をひとまとめにした屋根の造形などが総じて魅力的な空間を創出している。
- (3) 今後の関係者との要望を踏まえて、柔軟に対応できる計画である。

3 今後の予定

- (1) 県ホームページにおいて、技術提案書の一部（承諾を得たもの）及び審査の講評を公表します。
- (2) 受託候補者である特定者と基本・実施設計委託の契約を行います。

【参 考】

4 最終審査部会の実施状況

(1) 日時等

日 時 平成 28 年 8 月 9 日 (火)

場 所 はつかいち文化ホールさくらびあ

出席委員 伊東部会長, 古谷委員, 曾我部委員, 橋爪委員, 千代委員, 原田委員, 宮地委員(計 7 名)

(2) 最終審査参加者

(株)アトリエ・アント・アイ (東京都)

(株)藤本壮介建築設計事務所 (東京都)

(有)乾久美子建築設計事務所 (東京都)

三分一博志建築設計事務所 (広島県)

(株)千葉学建築計画事務所 (東京都)

(3) 聴講者数

312名 (定員296名 + 立見16名)



提案者によるプレゼンテーション



会場は多くの傍聴者で賑わった



最終審査の終了後、聴講者にも模型を公開した



各提案者の模型を審査

5 審議経緯

実施日	実施概要	備考
平成28年4月15日	審査部会（第1回）	評価基準，評価要領の策定
平成28年4月25日	公募型建築プロポーザル公示	
平成28年6月24日	参加表明書等の提出期限	109者提出
平成28年7月18日	審査部会（第2回）	技術提案書の提出者の選定（5者）
平成28年7月22日	技術提案書の提出要請	
平成28年8月4日	技術提案書の提出期限	5者提出
平成28年8月9日	審査部会（第3回）	公開ヒアリング，技術提案書の特定

6 広島県建築設計者選定委員会 宮島口旅客ターミナル審査部会 委員構成

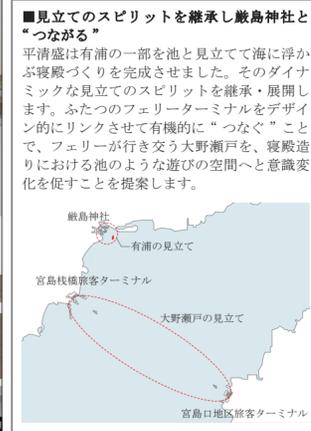
委員区分	氏名	所属等
部会長	いとう とよお 伊東 豊雄	伊東豊雄建築設計事務所
委員	ふるや のぶあき 古谷 誠章	NASCA／早稲田大学 教授
委員	そがべ まさし 曾我部 昌史	みかんぐみ／神奈川大学 教授
委員	はしづめ しんや 橋爪 紳也	大阪府立大学 教授
委員	せんだい しょういちろう 千代 章一郎	広島大学大学院 准教授
委員	はらだ ただあき 原田 忠明	廿日市市 副市長
委員	みやち まさと 宮地 正人	広島県土木建築局 建築技術部長

未来の宮島をつくる

新しい厳島港宮島口地区旅客ターミナルには、これまでの宮島観光を引き継ぎながら「宮島ブランド」のさらなる強化を図るという使命があります。私たちは、その使命を、宮島／宮島口／地域／未来を“つなげる”ための様々な工夫の丁寧な積み上げによって具現化します。



ア) 世界遺産・宮島の玄関口にふさわしい「宮島とのつながり」を意識した景観形成について



■見立てのスピリットを継承し厳島神社と“つながる”
 平清盛は有浦の一部を池と見立てて海に浮かぶ寝殿づくりを完成させました。そのダイナミックな見立てのスピリットを継承・展開します。ふたつのフェリーターミナルをデザイン的にリンクさせて有機的に“つなぐ”ことで、フェリーが行き交う大野瀬戸を、寝殿造りにおける池のような遊びの空間へと意識変化を促すことを提案します。



■おらかな屋根で宮島の文化的景観と“つながる”



イ) 人と人を“つなぐ”「新たな賑わいの創出」

■宮島口と宮島を“つなぐ”
 ふたつのフェリーターミナル、棧橋、広電宮島口駅の屋根や庇の勾配や素材に関係性をもたせ、エリア全体で一体感をつくることを提案します。また、沿道の住民や地区内事業者が取り入れやすい屋根や庇を景観誘導の主要な要素とすることで、多くの主体が新しい宮島口をつくることに参加できるようになります。

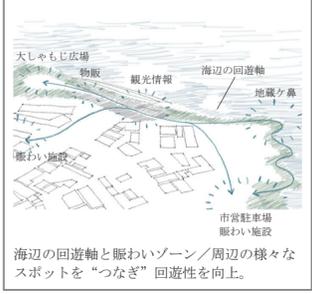


宮島口の将来的イメージ

■屋根のあつまりで地域全体が“つながる”
 新フェリーターミナル、棧橋、広電宮島口駅の屋根や庇の勾配や素材に関係性をもたせ、エリア全体で一体感をつくることを提案します。また、沿道の住民や地区内事業者が取り入れやすい屋根や庇を景観誘導の主要な要素とすることで、多くの主体が新しい宮島口をつくることに参加できるようになります。

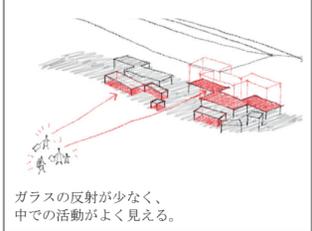
■海辺の回廊軸、大しゃもじ広場(緑地)と“つながる”

「海辺の回廊軸」は新フェリーターミナル(広電ガーデン)にある中央の大しゃもじストリートへと“つながり”、そのまま大しゃもじ広場(緑地)へと“つながり”ていきます。それらの要素すべてを一体的にデザインすることで、地域全体の回遊性を向上させます。



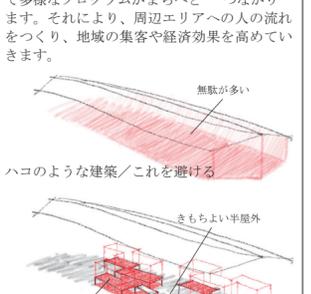
■独創的な大島居構造と仕組みで“つながる”

大島居は奥行き方向にサブフレームがある独創的な構造形式をもっています。新フェリーターミナルではその構造を継承して、大屋根の水平力を下部構造を支える新しい入れ子形式の建築になります。



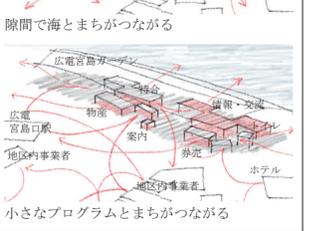
ウ) 未来に渡ってまちの活力を“つないでいく”ための「観光と生活の共存」

■入れ子構造でまちと“つながる”
 ハコモの建築は室内をまちから切り離してしまいがちですが、新フェリーターミナルはおらかな屋根による入れ子形式の建築なので多様なプログラムがまちへと“つながり”ます。それにより、周辺エリアへの人の流れをつくり、地域の集客や経済効果を高めていきます。



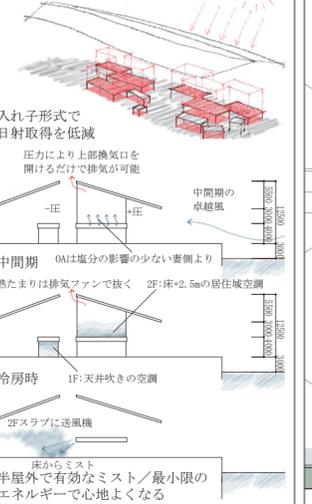
■透明で開かれた施設で人と人を“つなぐ”

新フェリーターミナルは、おらかな屋根の下にプログラムごとにまとめた小さなスペースを散在させた入れ子形式とします。小さなスペースはおらかな屋根によって直射日光が遮られるのでガラスの反射がなく、中での活動がよく見えるようになります。観光情報機能や総合案内所、物販機能などの存在を大いにアピールすることが可能になります。



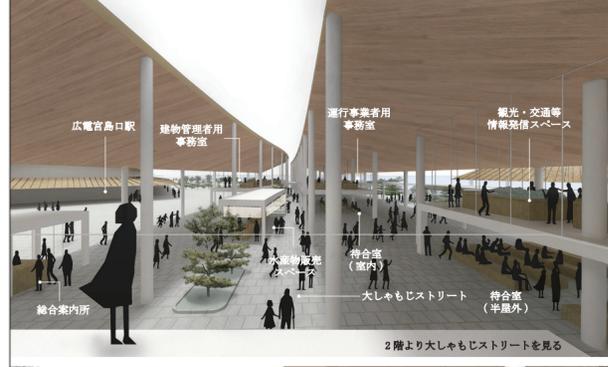
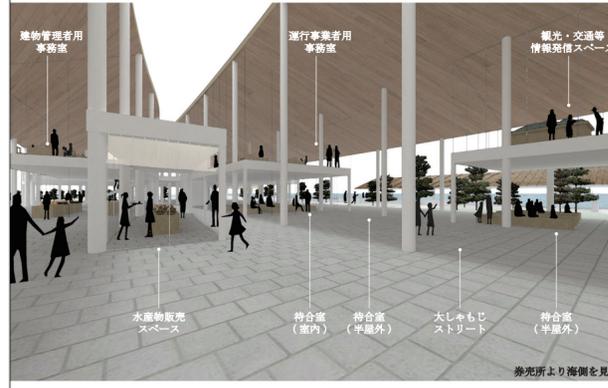
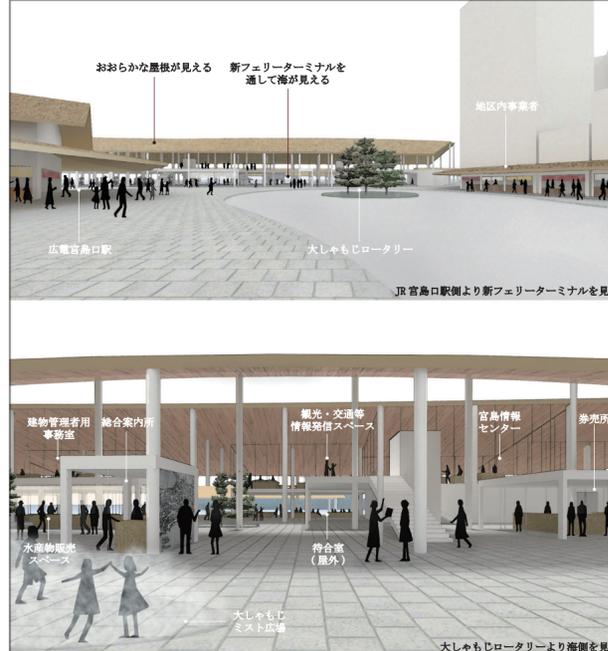
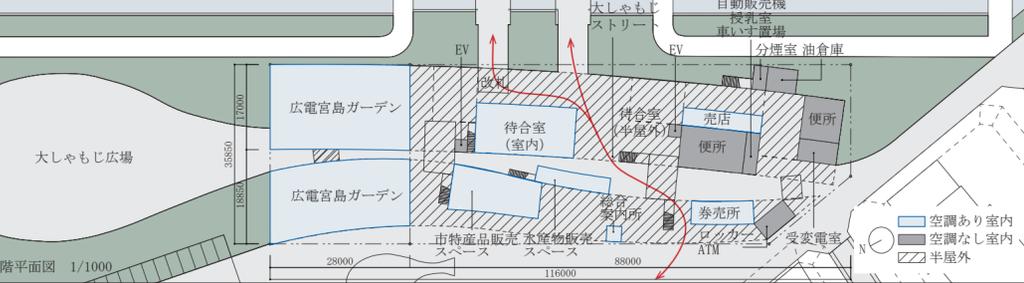
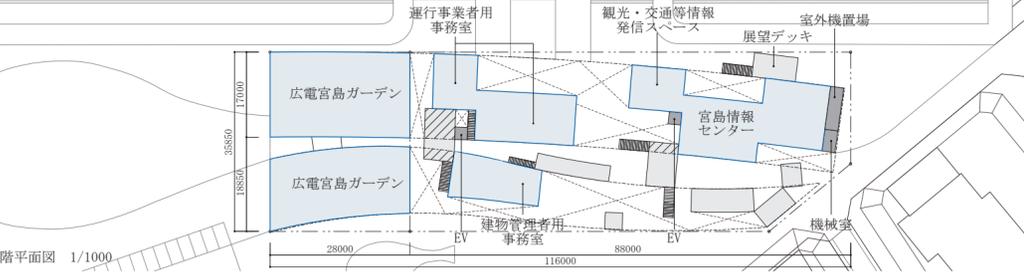
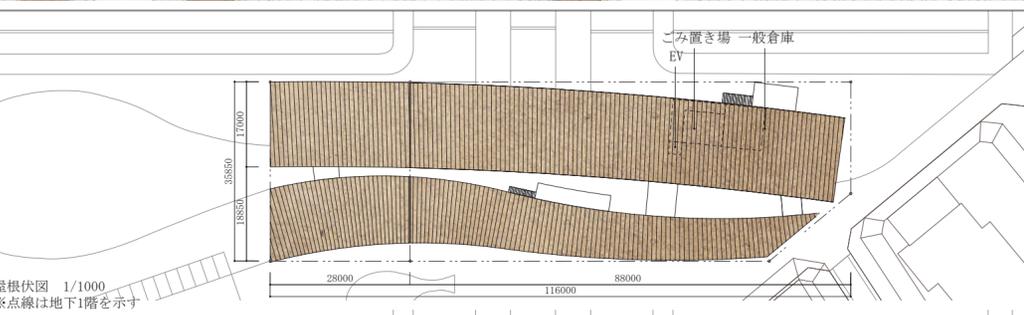
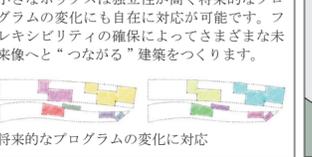
■環境性能の高い入れ子構造で未来へ“つないでいく”

入れ子形式を生かして室内の日射の熱取得をできるかぎり抑えます。また、閑散時に照準をあわせて空調空間を小さくします。それによりランニングコストを抑え、サステナブルで未来へと“つながる”建築をつくります。



■フレキシブルな建築で未来へ“つないでいく”

小さなボックスは独立性が高く将来的なプログラムの変化にも自在に対応が可能です。フレキシビリティの確保によってさまざまな未来像へと“つながる”建築をつくります。



種別	室名	面積 (㎡)				合計
		地下	1階	2階	合計	
基本機能	待合室		200	86	286	1080
	便所		172	172	344	177
	券売所・改札		57	29	86	86
	建物管理者用事務室 / 運行事業者用事務室			432	432	432
	総合案内所		10		10	10
	ロッカー室 / 自販機 / 授乳室 / 分煙室 / 車いす置場 / ATM			66	66	66
	一般倉庫 / こみ置場等 / 機械室 / 変電室 / 室外機置場		129	35	36	200
	広場		57	30	87	30
	交通部分		43	64	107	806
	付加機能	観光情報機能		197	450	647
	物販機能		197	197	197	
合計		172	521	1862	2555	
	室内	54.1%	1943 ㎡	1403 ㎡	3346 ㎡	39.1%
	半屋外	45.9%	1648 ㎡	1648 ㎡	3296 ㎡	60.9%